

わくわく!ふくいっ子



R7.10.14 文責 福井小学校長 鶴本正道

子どもたちの「元気」と「言葉」を育む

保護者の皆様、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

後期始業式では、子どもたちに「元気に大きな声で」と「自分の言葉で伝える」という二つの大切な話をいたしました。これは学校生活を豊かにするだけでなく、そのことが将来にわたって彼らを支える力になると信じているからです。



1. 「元気に大きな声で」の力

始業式で、子どもたちに「朝、『おはよう』と元気にあいさつできていますか?」と問いかけました。

元気な大きな声でのあいさつは、周りの人を明るくする魔法のような力を持っています。朝の慌ただしい時間でも、お子様の「おはよう!」という弾んだ声を聞くと、保護者の方ももきっと、気持ちが引き締まると同時に、優しい気持ちになるのではないのでしょうか。学校でも同じです。子どもたちの元気な声は、教職員や友達を笑顔にし、クラス全体の活気につながります。

また、「大きな声で自分の考えを伝える」ことは、積極的な学習態度にもつながります。自信を持って発言する経験を積み重ねることで、学校生活に主体的に参加する意欲が育まれます。

【保護者の皆様へのお願い】

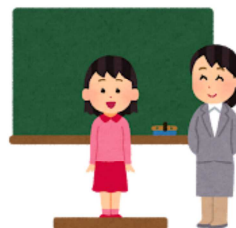
ご家庭でも、ぜひお子様の「声のトーン」に注目してみてください。元気なあいさつや、何かを質問する際の「大きな声」を肯定的に受け止めてあげてください。「声が大きいと気持ちいいね」「元気をもらったよ」といった一言が、子どもたちにとって大きな自信となります。

2. 「自分の言葉で伝える」ことの重要性

二つ目の「自分の言葉で伝える」ことこそ、これからの時代を生き抜く子どもたちに不可欠な力です。

学校での学習において、先生の質問に対して教科書の内容をそのまま答えるのではなく、「私はこう思います。なぜなら…」と、自分の頭で考え、感じたことを表現するように促しました。

これは、知識のインプットだけでなく、それを自分の中で消化し、アウトプットする思考力の訓練です。たとえ間違っていたとしても、その「自分の言葉」は、彼ら自身の「心」そのものです。その心からの言葉は、相手に熱意として必ず伝わります。自分の考えを整理し、論理的に構成し、他者に理解できるように伝える力は、学習面はもちろん、友達との対話や将来の社会生活においても、人間関係を築く土台となります。



【保護者の皆様へのお願い】

家庭での何気ない会話が、この力を育む最高の場となります。お子様が何かを話すとき、「それで、あなたはどう思ったの?」「あのニュースについて、どう思う?」と意見を尋ねていただけるとありがたいです。

また、お子様が言葉に詰まっても、焦らず最後まで耳を傾け、「あなたの考えを聞きたい」という姿勢を示すことで、子どもたちは安心して自分の言葉を探し、表現する習慣を身につけることができます。

学校とご家庭が連携し、「元気な声」と「自分の言葉」を大切に育みながら、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる環境を築いていきたいと考えております。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。